

特別支援学級（知的・病弱・自・情） 自立活動学習指導案

日 時 令和7年11月19日（水）5校時

子ども ひまわり1・2・3組 8名

（知的学級 3名、自閉症・情緒学級4名、
病弱・身体虚弱学級 1名）

指導者 T1 鈴木 理香 T2 千葉 陽子

1 題材名 なかよし大作戦！

2 題材の目標

- (1) 相手を意識し、自分の考えをもって伝えることができる。【コミュニケーション6】
- (2) 仲よく交流するために、相手の気持ちや状況に応じて活動に参加することができる。

【心理的な安定2】 【人間関係の形成3】

3 題材について

(1) 子どもの実態

本校の特別支援学級の自立活動は、学級ごとの指導と、3学級合同の指導を組み合わせで行っている。3学級合同の自立活動では、歓迎会や送別会、学習成果発表会などを行っており、落ち着いた雰囲気の中で活動している。また、通常学級の話し合いでは自分の考えを話すことができなくても、3学級合同の話し合いの場合は、支援を受けて、考えを話したり一人で発表したりすることができる子どもも多い。一方、語彙が少なく、促されてもなかなか話せない子どももいる。また、自分の意見が通らないと気持ちが不安定になる子どももいる。

学級	子ども	題材に関する実態	題材における目標
知的	A児 (3年)	・ 言葉や話し方が分かって発表することができる。語彙が少なく、言葉でのやり取りが難しいことがある。	・ 支援を受けながら、自分の考えを話すことができる。 【6-1】 【6-4】
	B児 (6年)	・ 自分の考えをもつことができる。自分の考えを話すことに不安を感じやすいため、話せないことがある。	・ 小集団の中で、自分の考えを話すことができる。 【6-5】 【3-4】
	C児 (6年)	・ 進んで考えを話したり、相手の話に反応しながら聞いたりすることができる。話題がずれたり話を遮って話してしまうこともある。	・ 話を最後まで集中して聞いたり、相手のことを考えて話したりすることができる。【6-5】 【2-1】
情緒	D児 (2年)	・ 慣れた集団の中で、活動を楽しむことができる。聞かれたことに対して、考えをまとめるまでに時間がかかる。	・ 教師と一緒に考えて自分の考えや思ったことを話すことができる。 【6-4】
	E児 (3年)	・ 聞かれたことに素早く反応し、自分の意見や考えを話すことができる。自分が思っていることと異なると、機嫌が悪くなることもある。	・ 自分の思いと異なっても、折り合いをつけて参加することができる。 【2-1】 【6-5】
	F児 (5年)	・ 相手の立場や好みを考えて意見を言うことができる。理由を話すときは、支援が必要である。	・ ひまわり学級全体の中でも、自信をもって自分の考えを話すことができる。【2-1】 【6-5】
	G児 (5年)	・ 学級の中では、自分の考えを話すことができる。自分の好みにとらわれた意見を出しがちである。	・ 相手の考えを聞き、自分の意見を調整して話すことができる。 【2-1】 【6-5】
病弱	H児 (6年)	・ 小集団で、時間がかかっても自分の考えを話すことができる。交流学級での発表では、緊張で涙ぐむことがある。	・ 小集団の中で、進んで、自分の考えを話すことができる。 【2-1】 【6-5】

(2) 題材について

本題材は、本校の交流籍の子どもと「なかよし交流会」を開催するための企画・立案、計画・準備、交流会の開催という構成で学習を進める。交流会は毎年開催しており、子どもにとっては見通しがもちやすく、これまでの経験を生かして自分たちで計画や準備ができる学習であると考え。また、友達を招待して行う活動であることから、相手に楽しんでもらいたいという意識をもちやすく、協力し合って役割を果たしたり、相手の考えを受け止めて自分の考えを伝えたりする力を高められると考えた。

(3) 指導にあたって

題材に位置付ける言語活動

交流箱交流のために、招待状を作ったり活動内容の工夫について話し合ったりする。

子どもたちは、今まで経験してきた交流会やお楽しみ会などの経験を振り返り、交流会の内容や役割について話し合いながら準備を進めていく。その際、子どもたちが主体となって活動できるよう、活動の見通しや各時間の学習のポイント、決まった内容を視覚的に示していく。話し合う際には、話し合いのポイントを示したり、どの子どもも自分の考えを表現できるよう実態に応じて手立てを工夫したりする。また、「なかよし交流会」に向けて、コミュニケーションにおける個々の目標の振り返りを行うことで、自分の成長や集団での達成感を実感できるようにする。

① 手立て1 目的をもって学びに向かう工夫

ア 一人一人が目標をもって活動に取り組めるように、導入の段階で、相手に喜んでもらえるような交流会のイメージを示す。

イ よい交流会に近付いたことが実感できるように、指導者との対話を通してめあてを振り返る。

② 手立て2 言語活動の質を高める工夫

ア 話し合いの視点や考えた内容を視覚化して掲示する。

イ 自分の考えをまとめたり広げたりできるように、意図的にペアを組んだり、指導者が子どもの発言をつないだりする。

4 題材の指導計画と評価（全7時間扱い）

時	学習活動	◆研究に係わる手立て・指導上の留意点
1	○ 学習の見通しを立てる。 ・ なかよし交流会の内容を考える。 ・ 目標を立てる。	・ 昨年度の様子を提示し、活動のイメージを捉えることができるようにする。 ・ 一人一人の目標を視覚化できるよう、カード等を用意する。 ◆ 一人一人が目標をもって活動に取り組めるように、導入の段階で、相手によるこんでもらえるような交流会のイメージを示す。（手立て1） ・ 相手を意識した内容かという視点を与える。
2	○ 招待状を作る。	・ 一人一人の書く内容を分担し、内容を絞って書けるようにする。
3	○ ゲームのルールや役割分担を決める。	・ 話し合いはペアを基本とし、答えられない場合は、あらかじめ考えていた方法から選択して表現するように促す。 ◆ 自分の考えをまとめたり広げたりできるように、意図的にペアを組んだり、指導者が子どもの発言をつないだりする。（手立て2）
4 ・ 5本時	○ ゲームの練習をする。 ○ ゲームについて改善点を話し合う。	・ 改善点を客観的に見ることができるよう、動画を撮影して見合ったり、教師が見取ったことを伝えたりする。 ・ ゲームをする時間、やり方等、考えるとよい点を示す。 ◆ よい交流会に近づいたことが実感できるように、指導者との対話を通してめあてを振り返る。（手立て1） ◆ 話し合いの視点や考えた内容を視覚化して掲示する。（手立て2）
6	○ なかよし交流会をする。	・ よい交流会になるように話し合った内容を掲示し、がんばるポイントを確認する。 ・ みんなが安心して楽しむため「ふわふわ言葉」を意識できるようにする。
7	○ 振り返る。 ・ 手紙を書く。	・ 手紙の内容について、「相手も喜ぶかな」と視点を示すことで、相手意識をもって書けるようにする。

5 本時の指導（5／7時間）

(1) 全体目標

- ・自分の考えを友達に伝えたり、友達の意見を受け入れたりできる。【コミュニケーション6】
- ・仲良く交流するために、交流する相手を意識してゲームのルールや伝え方について考えることができる。【心理的な安定2】【人間関係の形成3】

(2) 個別目標と評価規準

学級	子ども	個別目標	具体的な子どもの姿（評価規準） 評価方法	支援
知的	A児 (3年)	支援を受けながら、自分の考えを伝えることができる。	自分の考えを話している。 発言	・自分の考えを話すことが難しい場合は、あらかじめ考えていた方法から選択するように促す。
	B児 (6年)	小集団の中で、自信をもって自分の考えを話すことができる。	小集団の中で、自分の考えを話している。 発言	・発表の前に、話す内容を一緒に考える。
	C児 (6年)	相手のことを考えて聞いたり話したりすることができる。	相手のことを考えて、聞いたり話したりしている。 観察・発言	・話し合いの前に、話し合う時のマナーや話し合いの目的を確認する。
情緒	D児 (2年)	自分の考えを話すことができる。	ゲームについての感想やよくなるためのアイデアを話している。 発言	・話せない場合は、選んで発表できるように、いくつか選択肢を準備する。
	E児 (3年)	友達の意見を受け入れて参加することができる。	相手と考えが違って、イライラせずに参加している。 観察	・イライラした時にどうすればいいか、事前に約束する。
	F児 (5年)	話し合いで自分の考えを伝えることができる。	グループ内で話す時に、ゲームがよくなるための考えを伝えている。 発言	・話す内容について肯定的に受け止めて、話せるようにする。
	G児 (5年)	友達の考えを聞き、自分の意見を調整して話すことができる。	友達の意見を受け入れたり、怒らないで参加したりしている。 観察	・参加の仕方について事前に約束したり、気持ちの切り替えができたことを認めたりする。
病弱	H児 (6年)	小集団の中で、進んで自分の考えを話すことができる。	小集団の中で、進んで自分の考えを話している。 発言	・安心して話せるように、話す内容のヒントを与えたり、話す順番を最後にしたりする。

(3) 展開

	学習活動 ・ 子どもの反応	◆研究に係わる手立て ・指導上の留意点	具体的な支援
導入 5分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の学習内容、学習課題を確認する。 もっとみんなで楽しめるゲームにするためのアイデアを出しあおう	- 活動の流れを確認し、本時の見通しがもてるようにする。 - 全体のめあてと、前時に決めた個人のめあてを確認する。	(全体)見通しをもてるように、活動の流れ、時間配分を掲示する。
展開 30分	3 ゲームのお試し練習をする。 4 もっと楽しいゲームにするために話し合う。 5 もう一度ゲームを行う。	- 来てくれた友達が楽しめるゲームにするという視点を示してからゲームを行う。 - ゲームをする時間、やり方等、見直すポイントを示す。 - 話し合いのペアは、指導者が意図的に組む。 - 安心して自分の意見が出せるように、前時の話し合いの内容を意識させる。 - 活動している様子の動画を見て、改善点に気付けるようにする。見付けられない時には、教師が気付いたことを伝える。 ◆話し合いの視点や考えた内容を視覚化して掲示する。(手立て2) - 改善ポイントを意識しながらゲームができているか、二組に分かれてゲームの様子を見合うようにする。	(全体)ゲームをしている場面を録画し、振り返る材料にする。 (全体)話し合った内容についてペアごとに意見をボードに書く。 (A児)発問に対して答えられない時には、教師がいくつかの選択肢を準備する。 (D児)話せない場合は、選んで発表できるように、いくつか選択肢を準備する。
終末 10分	6 学習の振り返りをし、交流会への意欲を高める。	- 一人一人の実態に応じた振り返りカードを使用し、個人のめあてや全体のめあてについて振り返る。 ◆よい交流会に近付いたことが実感できるように、指導者との対話を通してめあてを振り返る。(手立て1) - よい話し合いができたこと、それにより楽しいゲームになったことを称賛し、本番に向けての準備等を確認する。	(A児)達成度を表情マークから選ぶ。
[期待する振り返りの例] - みんなの前で話すことをがんばった。交流会でよろこんでもらいたい。交流会では、なかよく交流したい。 - 自分の考えと違って、友達の意見をしっかり聞いて話し合うことができた。			

